南半球便り（その 95）：豪州の中の日本

11 月 14 日

「海外生活に不自由はないですか？」読者の方から寄せられた質問です。

外交官生活を初めて 40 年近くになりますが、そのうち 15 年近くを海外で過ごしてきました。ニューヨーク、ワシントン DC、香港、ジュネーブ、ロンドンを経てキャンベラに。おおむね生活環境に恵まれた都市であったので、仕事の厳しさはともかく、日常の暮らしの面では大きな苦労はありませんでした。それでも日本との決定的な違いがあるのです。今日は、そのあたりを掘り下げてみます。

１．「やっぱり、日本はいいなあ」

日本で生まれて育ち、就職するまで海外旅行さえ経験してこなかった「マルドメ」の私です。そんな私が帰国するたびに上記の台詞を発するのは、湯船につかった瞬間です。多くの同胞に共感してもらえることでしょう。

日本には魅力的な温泉が各地に存在します（写真全て©JNTO）

欧米では、シャワーが併設された浅いバスタブに、ウナギのように身を横たえて、お風呂気分を味わうのが関の山。豪州では、シャワーだけで、バスタブさえないホテルや住宅も数多くあります。

ですので、先日用務帰国した際にも、寸暇を惜しみ、通い慣れた浅間山麓の露天風呂に駆けつけました。並々と溢れ続ける豊かな湯量にみとれ、手足をゆっくり伸ばしつつ、上記の唸り声を上げた次第です。

２．シドニーの檜風呂

そんな経験を何度も重ねてきたので、今回シドニーの日本風旅館に泊まり檜風呂を発見したのには、本当に驚き、舌を巻きました。

「豪寿庵」の檜風呂。なんと日本から直輸入。

手入れの行き届いた庭

在留邦人の方の紹介で訪れたのは、シドニー市中心部から車で 20 分ほどの近距離にある旅館「豪寿庵」。10 年ほど前に自宅を改装された際に、一階部分に設けた客室二室のみの、こじんまりとした造り。でも、中身は日本そのもの。女将のリンダ・エバンスさんによれば、檜風呂は日本から直輸入の由。大人二人が楽々と一緒に浸かれる広さで、お湯が常に循環。気づいたら、日本ではないので、「やっぱり、風呂（「日本」ではなく）はいいなあ。」（笑）と唸っていました。

驚きは客室にも。完全和室にて布団で就寝。ただし、襖を開けばトイレとシャワーがあり、そこは床暖房。日本の温泉宿で、寒い夜中に冷えた体でトイレまで歩く距離が長かったことに学び、「カイゼン」を試みた由。やります。心憎いばかりの細部への気配りです。そして、朝食は完璧な和定食！米はこしひかり。

三ヶ月先まで予約が詰まっているという点に、如何に日本人だけではなくオージーにも人気を博しているかが、うかがわれました。

女将のリンダさんと

すがすがしい庭

３．発展途上のウォッシュレット

風呂に次いで日本を恋しく感じるのは、トイレです。和式便所が懐かしいわけでは毛頭ありません。そう、ウォッシュレットです。

かつて外務省の若手で、「ウォシュレットが無い国には赴任したくありません。」と喝破して上司にあきれられた男がいました。でも、気持ちは分からなくはありません。台湾や韓国では徐々に浸透しつつあるようですが、豪州はまだまだ。

後学のため、少し背伸びしてシドニー中の高級ホテルに泊まり歩いて視察（笑）を重ねてきました。その結果、客室にウォッシュレットを備えているのは、パークハイアット・ホテルとクラウン・ホテルのみ。改装後のシャングリラ・ホテルも導入予定とのこと。少しずつでも増えていくのは期待が持てます。

かつて、訪日したハリウッドの大スターがお土産に持ち帰ったとの噂を聞きました。これぞ日本発の「イノベーション」の好例であり、臆することなくその効用を売り込んで行くことが期待されます。ちなみに、キャンベラの大使公邸には完備してありますので、どうぞ気兼ねなくお使いください！

４．麺

海外暮らしで第三に懐かしく思うのは、麺です。そう、蕎麦、うどん、ラーメンの類いです。日本食ブームの昨今、寿司や天ぷら、鉄板焼きの店はいくらもありますが、いささか「難易度」が高く、かつ、薄利多売が必要なためか、上質の麺店がひどく限られてしまうのです。

海外暮らしで懐かしく思う日本の麺

（写真全て©JNTO）

そう言えば、1980 年代後半のニューヨーク留学中、ミッドタウンのラーメン屋、グリニッジ・ビレッジの京風つけ麺店に足繁く通ったことを今も覚えています。

そんな背景を踏まえると、豪州が如何に恵まれているかが明らかになります。シドニーの蕎麦「新ばし」、「チャコラーメン」や「一番星」、メルボルンの「博多元助」など、本格的な蕎麦・ラーメン屋が進出し、在留邦人だけでなく、多くのオージーが堪能しているのです。

シドニーやメルボルンがニューヨーク、ロンドン、パリに勝るとも劣らない質の高さを誇るのも、オージーの中に多くの日本リピーターがいて、本物の味を熟知しているからでしょう。

５．双方向の交流へ

ということで、風呂、トイレ、麺の三重大要素のいずれをとっても、豪州では日本人がホームシックにならないでよい方向に徐々に進んでいるとも言えるでしょう。

去る 10 月 11 日をもって、日本の国境が完全に開きました。年末のクリスマス休暇中の豪州主要都市から日本への航空便は、ほぼ満席の由。こうして日本の「優れ物」に触れたオージーが豪州に持ち帰り、ひいては日本からの訪問客の増大につながる。そんな相乗効果に期待しながら、シドニーでカレー南蛮蕎麦を勢いよく啜り上げていました。

山上信吾